



司法修習生のバッジが光る西村和浩氏

OB探訪

通教へ一念発起 未来の扉開く

司法試験合格の西村和浩さん 貫いた初志

いつでもどこでも勉強できる通信教育(通教)は、自分との闘いといわれる。西村和浩氏(41)は中央大学法学部通信教育課程を卒業後、一橋大学法科大学院を修了して、昨年、司法試験に合格した。

長野県の県立高校を卒業し、入学した東京の理科系大学をやむなく中退。新聞配達で生計を立てた。

毎朝約300部を自転車に積む。バランスを取るのが難しい。「寒い日は大変だね、とよく言われますが、寒さは走れば体が温かくなります。大変なのは暑い日です。自転車を漕いで10分でたまらずに、自販機のスポーツ飲料で水分補給したことがあります」

「法律の勉強がしたい」

誠実な仕事ぶりが評価され、この仕事を続けて販売店主になろうかな、と思ったことも。

ある日、チラシに目が止まった。

中大法学部通信教育課程の入学案内だった。日々の業務には配達のほか、勧誘・契約・集金業務などがある。

購読契約のトラブルに直面し、処理に苦慮した。法律が絡むことで困っている友人に、アドバイスできる人が周囲にいなかった。生活のなかで法律の必要性を感じていた。

「法律の勉強をしたいと思っていました。法律知識があれば、どんなにいいだろうって。でも、当時は司法試験がどういうものかも知りませんでした」

26歳になる年の一念発起。中大通教に4月入学の手続きをした。通教は入学試験がない。書類選考で入学が決まった。

新聞配達と通教の両立の始まりだ。受講する各科目に「レポート課題」があり、郵便でやりとりをする。課題を解くには教科書や参考書をもとに学習を進めていく。レポート学習ののち、科目試験に合格して「授業科目単位」を修得する。

卒業に必要な単位数は131。スクーリング(面接授業・パソコンを介したメディア授業)単位数は1年次入学の場合、30。卒業論文は必修である。

通教生となった西村さんは、レポートが返送されると「すぐに開封して見ました。やはり評価が気になります」。指導者の顔は見えないが、文面を通じて人柄が分かる。励まされ、褒められて、時には注意を受けた。

24時間、フル回転の夏

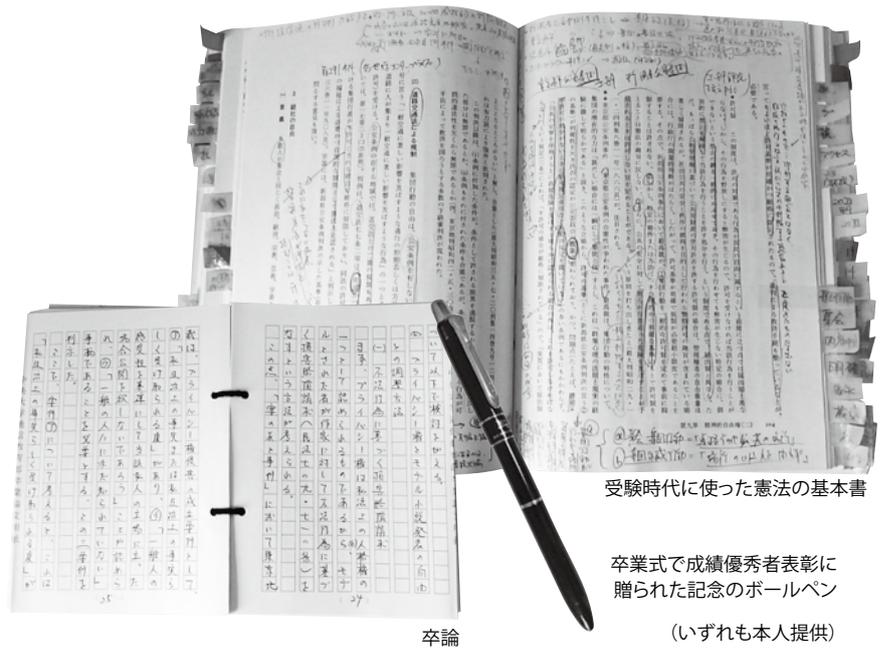
夏期に3週間のスクーリングを体験した。(3週間は西村氏が在籍当時の期間で、現在は3日間×3期の9日間で実施)

多摩キャンパスで授業を受ける。そのころの1日はこうだった。

2:30	販売店へ。新聞社からインクの匂いがする新聞が届く。1部ずつにチラシを挟み込む。
3:20	自転車で配達に出発。
7:00	都内の自宅を出て中大多摩キャンパスへ。
9:20	1時限開始。
12:45	昼休み、学食へ。
17:20	4時限が終わる。帰路を急ぐ。
19:00	販売店に戻る。購読家庭や商店を回って集金し、店で精算、夜間金庫へ入金する。
23:00	帰宅。シャワー、軽食。この日の復習。
1:00	就寝。

ほとんど寝ていない生活だった。中大最寄り駅の一つ、多摩動物公園駅からキャンパスに入る途中にネコがいた。日々の疲れからか、自転車やバイクの上で眠るネコに「癒やされましたね」と小さく笑った。吾輩はネコになりたかったのかもしれない。

2週目のころ。授業を終えた帰りの電車内、吊り革につかまり、立ったまま眠ってしまった。座れたある日。ホッと居眠りし、すぐに熟睡状態。隣席の女性の肩にもたれかかったようで注意を受けた。謝って



受験時代に使った憲法の基本書

卒業式で成績優秀者表彰に贈られた記念のボールペン

(いずれも本人提供)

卒論

もまた眠りに落ちる。

1日24時間を無駄なく、精いっぱい使う日々。楽しみはスクーリングで会った幅広い年齢層の仲間との語らいた。

勉強は一人で頑張っていた。「さまざまな人生背景を持つ方々が高い志を持って、勉強されている姿に励まされていました」

当時60代男性と親しくなり、勉強する意識の高さに敬愛の念を抱いた。介護に関する親子間、夫婦間の悲しい事件が話題になったときには、人生の先輩から深い思いやりの気持ちを学んだ。

中央図書館でレポートを書いた。「普段見られない参考文献があり、勉強させていただきました」。蔵書は約227万冊もある。

4階建ての学食棟「ヒルトップ」で、年長者らを交えた仲間とのランチを楽しみ、学生研究棟「炎の塔」を見学しに行った。

スクーリングには体育の授業もある。ストレッチ、バスケットボール、バレーボールにいつとき興じた。「ストレッチはいまでも続けています。夜、ストレッチをするとスカッとして気持ちがいい。疲れがとれている。効果、ありますよ。あの先生にお礼を申し上げたい」

通教卒と「握手したい」

普段は仕事の合間に勉強していた。レポート学習、科目試験、スクーリング、同試験など一つひとつクリアして、4年で卒業した。

ネコに癒やされたときもある



「自分のペースで勉強できるのが通教のいいところ」

限られた時間を駆使し、眠くなる自分と闘った。初志を貫徹して、「通教卒業を誇りに思います。自信になっています」と明言した。

「奨学金をいただいたのが励みになりましたね。学費も負担が少なかったです」。通信教育課程の広告コピーには『人生を変える8万円』とある。基本授業料は年額8万円、レポート添削料も含まれる。通信教育用郵便物のため、郵便代はレポート1通15円だ。

人との出会いで、通教卒業と分か

ると、握手したくなる。苦労して積み重ねた時間の経過が分かるという。

卒業後、司法試験を目指した。新聞配達も卒業し、新たな仕事に就いた。仕事が面白くなっていく。周囲の期待も高まっていく。

このころの旧司法試験受験では残念な結果となったが、「法律の勉強をしてきたので」と社会保険労務士の資格を取った。37歳だった。

併せて受験した一橋大学法科大学院に合格。仕事を辞めて受験生活に入った。司法試験は2度目の受験で合格。現在は司法修習生として、新たな勉強を続けている。

研修先の東京地裁に入る際、「修習生になったんだな」と気持ちが引き締まるという。

志望は弁護士だ。難関試験合格を知った新聞販売店主らが祝宴を開いてくれた。恩返しをしたい。弁護は市民レベルで。街行く新聞配達員の姿を見るたびに胸が熱くなる。「頑張っているなあ」

西村さんは言う。

「敷居の低い弁護士になりたいですね。役に立てるよう、もっと勉強します」



通信教育用郵便物には割引

通教教材用の通常郵便物には割引がある。提出するレポートと質問票などが、割引対象となる「第4種郵便」扱い。通常100^円までの「切手代15円」で大学—学生間を往復する。割引適用は1^キまでだが、教科用図書については最大3^キまで発送が可能。

レポートは手書き、卒論も必修。けっして楽ではありませんが、そのぶん確かな力が身につきます

「本課程の学びの中心は、レポート学習です。レポートは手書きでの作成です。レポート学習を通じて、論理の流れを考える能力や論文の構成力を身につけながら法的思考を養い、卒業論文という形で完成させます」(中央大学法学部通信教育課程ガイドブック2016より)

ヒトに関するエキスパート

社会保険労務士は、労働・社会保険に関する法律、人事・労務管理の専門家として、企業経営の3要素(ヒト・カネ・モノ)のうち、ヒトの採用から退職まで労働・社会保険に関する諸問題、さらに年金の相談に応じる、ヒトに関するエキスパートです(全国社会保険労務士会連合会HPより)。

